

# Wish

ユニセフ兵庫ニュース

vol.51  
2017年1月号



© UNICEF/JNO16642/everett  
ユニセフのワークブックを読む南スーダンの小学生

## CONTENTS

2-5 特集 **REPORTS FROM THE WORLD**  
**世界の現場から未来を見つめる**  
人生を変えるアフリカ / ユニセフモニタリング評価担当官が語る南スーダン  
国際協力の現場を体験して

6-7 **活動ファイル**  
2016年9月～12月  
8 **お知らせ**

Event Data イベントデータ

**第5回 国際理解講座**  
 日時 12月3日(土)  
 会場 コープこくべ生活文化センター(神戸市)  
 参加者 68人

Profile 講師プロフィール



**大津 司郎さん**  
 ジャーナリスト。30年以上にわたるアフリカ紛争地域取材。グローバルな視点で分析、レポートを行っている。



**甲斐 信好さん**  
 拓殖大学国際学部教授。アフリカ紛争と民主化に関心を持ち、12年間学生とともにアフリカを訪れている。

「どうやって生き残るのか?」アフリカで「アフリカで」の取材から学んだことを日本に還元したい。そして、良い思いを一度も経験することなく亡くなるアフリカの子どもたち。そこで生きるたくましい女性と子どもたちの声をメディアを通して伝えたい。しかし、伝わることは難しいとも話されました。

# 人生を変えるアフリカ

大津さんと甲斐さんをお招きした講座は、「アフリカの今、そして過去から学ぶ」「日本と、どう生きるのびる?」「テロ、世界、日本・私捕まらぬ」に続き4回目となりました。

甲斐さんは、ルワンダの除隊兵施設を訪れたときの学生の質問に元兵士が「お前は20歳になるまで銃を持って戦いをした経験がないのか、そんな国があるなんて信じられない」と答えたことを例に、アフリカの現実をみて世界観を変える学生がいるとアフリカにはそんな力があると話されました。

大津さんは、日本は70年間戦争もなく徴兵制もない価値ある国だが、その中で体験は世界の現実とはかけ離れたものである。グローバルゼーションの中で生きていくとき、内にこもっていても外が見えてこない。「どうやって生き残るのか?」アフリカで「アフリカで」の取材から学んだことを日本に還元したい。そして、良い思いを一度も経験することなく亡くなるアフリカの子どもたち。そこで生きるたくましい女性と子どもたちの声をメディアを通して伝えたい。しかし、伝わることは難しいとも話されました。



「M大行きたい、M大行きたい」と思い続けてきたそうです。

難民キャンプでの体験や、ポリタンクを抱えて井戸まで長い道のりを歩く子供たちの姿を見て、自分の中の何かが変わったらしい。日本に帰って来たとき、ふと「アタシ、なんてアホなことを考えているんだろう」と思った。

私たちは多くの場合自分中心で、他人と比べてばかりいます。「私にはこれが足りない。これも持っていない。私は不幸だ」と。困難の中で懸命に生きていこうとする人々を見たとき、違うものが動き出す。「私にも何か手助けができないか」と視点が変わる。

そうやって自己を見ると、自分にも使える力がたくさんあることに気づきます。自分がいかに恵まれて生きているか。できることは何か。それが私たちの中の誇りを呼び覚ましてくれる。

そんな学生をたくさん見てきました。Bさんはいま掘削会社に勤め、日本の援助でアフリカの村に井戸を掘る仕事をしています。そして「先生、これが私の天職よ。いい大学に行きました」と言い切ります。心の底で「よく言うわ」と思いつつも苦笑。

アフリカは確かに悲惨なことがたくさんあります。目を覆いたくなる事実を突きつけられることも。暗さの中でこそ一筋の光が強調されるように、だからこそ人間のすばらしさに胸を打たれることもあります。

ある作家がこう言っています。「アフリカは悲しいくらい偉大な教科書である」と。そのことを学生と共に学び続けていきたいと思えます。

\*サブサハラ・アフリカ:アフリカのサハラ砂漠より南の地域

寄稿

## 偉大な教科書アフリカ

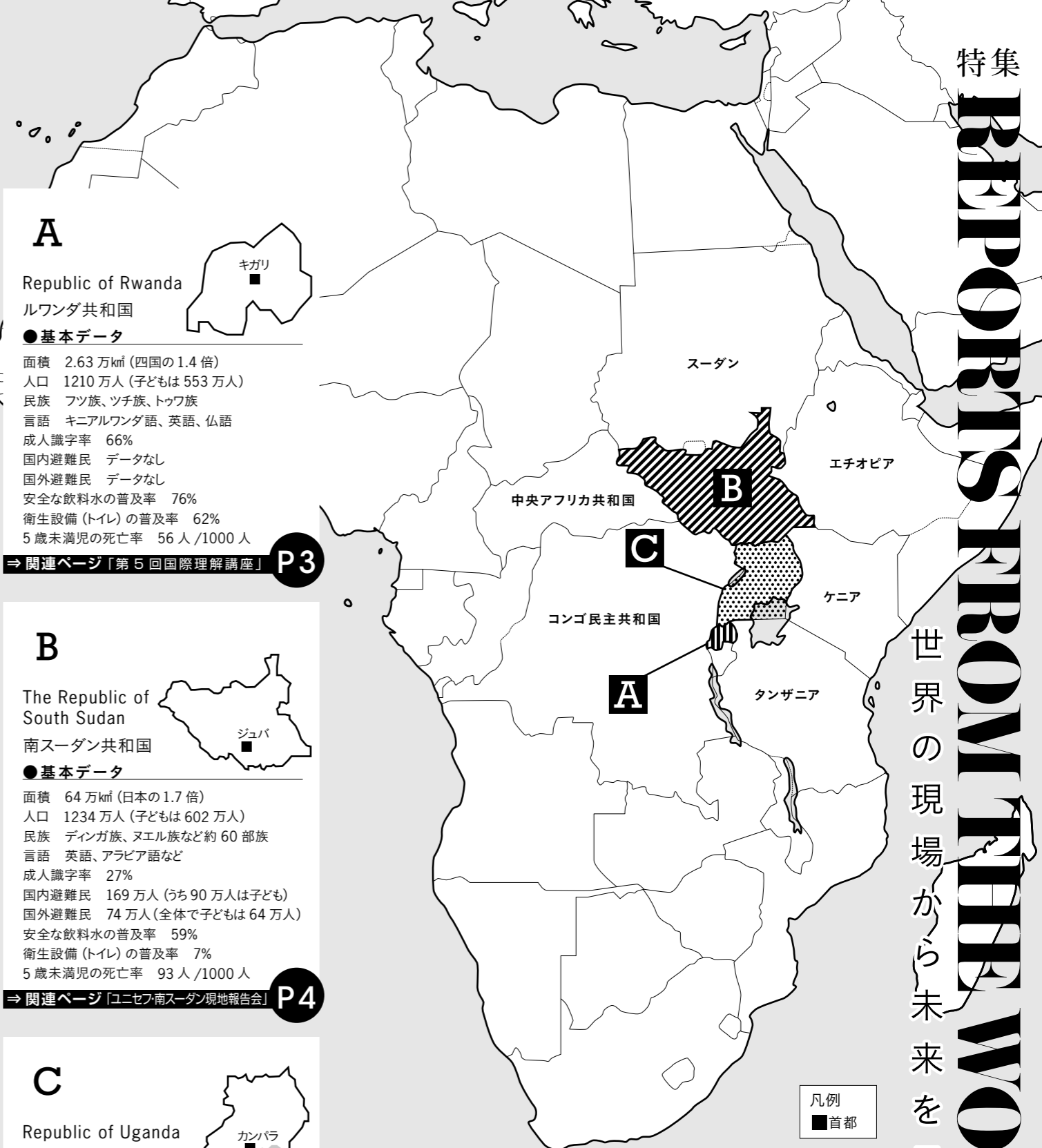
拓殖大学国際学部教授 甲斐信好

アフリカ・ジャーナリストの大津司郎さんの導きで、アフリカに学生たちを連れて行くようになって12年になります。目的は「国際政治の最前線を知ること」。難民、貧困、紛争、虐殺、感染症…アフリカでは日本で知ることのできない国際社会の現実を目の当たりにします。

難民キャンプの子どもたちにインタビューが「あなたの夢は?」と聞きました。「お医者さんになること」「先生になること」…そんな答えを期待していたのですが、返ってきたのは「明日、生きていたい」。

大半の家庭に水道のない\*サブサハラ・アフリカの国では、井戸まで水を汲みに行くのは子供か女性たちの仕事です。就学率の向上を邪魔する大きな要因は児童労働なのです。大人の私たちにも重たいポリタンクを抱えて、時には何キロもの道の子供たちが出かけているのを見ると胸が痛みます。

Nさんは、浪人した上、第一志望に落ちて私の大学に入ってきました。1年生のときからずっと「私はこんな大学に来るはずじゃなかった。第一志望に合格してい



**A**

Republic of Rwanda  
 ルワンダ共和国

●基本データ

面積 2.63万km<sup>2</sup>(四国の1.4倍)  
 人口 1210万人(子どもは553万人)  
 民族 フツ族、ツチ族、トゥツ族  
 言語 キニアルワンダ語、英語、仏語  
 成人識字率 66%  
 国内避難民 データなし  
 国外避難民 データなし  
 安全な飲料水の普及率 76%  
 衛生設備(トイレ)の普及率 62%  
 5歳未満児の死亡率 56人/1000人

⇒ 関連ページ「第5回国際理解講座」 **P3**

**B**

The Republic of South Sudan  
 南スーダン共和国

●基本データ

面積 64万km<sup>2</sup>(日本の1.7倍)  
 人口 1234万人(子どもは602万人)  
 民族 ディンガ族、ヌエル族など約60部族  
 言語 英語、アラビア語など  
 成人識字率 27%  
 国内避難民 169万人(うち90万人は子ども)  
 国外避難民 74万人(全体で子どもは64万人)  
 安全な飲料水の普及率 59%  
 衛生設備(トイレ)の普及率 7%  
 5歳未満児の死亡率 93人/1000人

⇒ 関連ページ「ユニセフ南スーダン現地報告会」 **P4**

**C**

Republic of Uganda  
 ウガンダ共和国

●基本データ

面積 24万km<sup>2</sup>(ほぼ本州大)  
 人口 3903万人(子どもは2147万人)  
 民族 バガンダ族、ランゴ族など  
 言語 英語、スワヒリ語、ルガンダ語  
 成人識字率 73%  
 国内避難民 治安回復に伴い大半が帰還  
 国外避難民 周辺国からの難民を多数受け入れ、南スーダンからは40万人  
 安全な飲料水の普及率 79%  
 衛生設備(トイレ)の普及率 19%  
 5歳未満児の死亡率 55人/1000人

⇒ 関連ページ「第4回国際理解講座」 **P5**

紛争で日常を奪われ、つらい体験をした子どもや若者がこの地域にもたくさんいます。彼らが笑顔を取り戻せるよう、ルワンダ、南スーダン、ウガンダの基本情報やレポートを通して、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。

特集  
**REPORTS FROM THE WORLD**  
 世界の現場から未来を見つめる  
 東部アフリカ編

\*データは主に外務省 HP、ユニセフ「世界子供白書 2016」、難民を助ける会 HP による  
 \*ユニセフでは、子どもは18才未満の者をさす  
 \*地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではない

## 子ども兵とは



ウガンダの子ども兵  
写真提供: 認定 NPO 法人  
テラ・ルネッサンス

正規・非正規を問わずあらゆる軍隊に所属する 18 歳未満の子どものこと。世界中で少なくとも約 25 万人いるとされ、戦場では弾よけとして最前列に立たされるなど危険な役割を担われる。また約 40% が少女で、多くは男性兵士と強制結婚をさせられる。兵士になるきっかけは誘拐、又は、貧困のため衣食住が満たされるだろうということにひかれての志願。

**ウガンダでの元子ども兵  
社会復帰支援活動**

ウガンダでは、反政府組織 LRA (神の抵抗軍) が村を襲撃してきて、村のほとんどの子どもが一度に連れていかれます。

2001 年京都で設立。紛争や災害に巻き込まれた人々の自立と自治のための支援活動を行っています。カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ブルンジでは「地雷」「小型武器」「子ども兵」などの問題に取り組み、日本では岩手県・大槌復興刺し子プロジェクトの他、平和講演などを行っています。

# わたしにできること 国際協力の現場を体験して

## Event Data イベントデータ

**第4回 国際理解講座**  
日時 10月22日(土)  
会場 コープこうべ生活文化センター  
参加者 66人

※国際理解講座は、日本国連協会兵庫県本部との共催で、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて行いました。



## Profile 講師プロフィール

こうむら まき  
**幸村 真希**さん

大阪大学大学院国際公共政策研究科卒。国際協力 NGO 勤務を経て、2013 年からユニセフコートジボワール事務所にて活動。2015 年から南スーダン事務所にてモニタリング評価担当官として勤務。2016 年 7 月からは情勢悪化を受けケニア・ナイロビで活動。モニタリング評価担当官は事業計画の策定、活動報告、他機関との調整などを行っている。

日本で先生になるつもりでしたが、同じ時代、同じ地球上で起きている不平等に疑問を持つようになり、助けたいと思う存在の範囲が国外に広がっていきました。そして国際支援の仕事をするようになりました。防げる病気や紛争で子どもが死ぬことがないようにしたい。そして命に関わるのと同じくらい大切な、子どもが子どもらしくいられることを守りたいのです。南スーダンは、数十年の内戦を経て独立を果たした「世界で一番新しい国」です。南スーダンの現状を知って、誰かに伝えることが支える力になります。明るく、新しいことを受け入れることのできる人々のいるこの国のことを忘れないでいってください。命の危険がある中、支援を続けているチームの一員であることを誇りに思います。

南部には肥沃な土地がありながら、紛争や避難などによる農業従事者の不足、流通の滞りなどの原因によって、全体では食糧不足が深刻です。特に東・北部は反政府勢力の拠点があつて紛争激戦区のため、現状の把握も難しくなっています。インフラ、とりわけ道路事情が悪く、雨季(5月~9月)は泥沼化して移動が困難になるため支援も届きにくく、栄養状態も良くありません。川に近い所では蚊が多いのでマラリアが発生しやすく、密集した避難キャンプで、ひとたび感染症(マラリア、はしか、コレラなど)が流行するとすぐに拡大してしまいます。医療機関へのアクセスは病院の破壊や医療従事者の不足から困難ですが、コレラ対応として、多数設置されているユニセフの経口補水ポイメントは、初期段階での治療に役立っています。

ほとんどの人が難民キャンプで生まれ育ち、十分な教育を受けていません。約180万人が学校に通えていない状況です。教員不足の問題に対してユニセフは、テントを設置して教員研修を行い、給与の補助もしています。子どもたちは皆「学校に行きたい」と言い、親も、子ども兵士を解放した武装勢力の司令官でさえ、「子どもを学校に通わせたい」と言っています。

**保護者・同伴者のいない、もしくは所在不明の子どもの数は13000人以上、武装グループへ徴用された子どもは16000人以上**

紛争地域から逃げる途中で家族とはぐれてしまった子どもが一人いると、暴力(特に女性に性的暴力)を受けたり、兵士として武装勢力に徴用されたりする問題が起きます。こうした子どもや武装勢力から解放された元子ども兵士を保護し、家族と

現在、当会で支援を行っている第8期生の平均拘束期間は14年、平均除隊年齢は26歳。脱走または政府軍による救出で帰還し、政府やNGOの集まる機関での調整後、村に戻るか、社会復帰施設での受け入れとなります。

テラ・ルネッサンスの社会復帰施設では基本的な生活支援やトラウマケア、教育を行い、自立し就業できるまで3年間、一人ひとりに合わせてサポートしています。

帰ってきた村で温かく受け入れてもらえることもありますが、帰還できる子どもは限られ、地域の人々からの嫉妬や反発を受けることもあります。そこで、地域の貧困層の住民にも同様の支援を行っています。



小学校の教室の窓から顔を出して微笑む少女

# ユニセフ モニタリング評価 担当官が語る南スーダン

## Event Data イベントデータ

**ユニセフ・南スーダン現地報告会**  
日時 9月6日(火)  
会場 コープこうべ住吉事務所(神戸市)  
参加者 78人

## 南スーダンの紛争の歴史

1955	英国とエジプトによる南北共同統治からの独立を求め第一次スーダン内戦勃発
1956	スーダン(南北合わせて)として英国から独立
1983	南部の石油資源独占をめぐる分離独立運動から第二次スーダン内戦勃発
2005	和平合意
2011	1月の住民投票を経て、7月193番目の国連加盟国として南スーダン独立
2013	12月首都ジュバにおいて違う部族出身の大統領警護隊同士の衝突が起こり、それが地方にも飛び火
2015	8月和平合意に調印
2016	4月国家統一暫定政権樹立。7月政府側と反政府側との間で銃撃戦が勃発。5日後停戦合意発効。しかし現在に至るまで断続的な民族間の紛争は継続している

**小学校就学率は41%  
中学校進学率は10%**

再会できるような情報を集めて探しています。子どもたちのいる社会復帰支援施設では衣食住が確保され、トラウマを抱えている子どもへの心理社会的なケアや基礎教育、職業訓練などが行われています。長期的な支援も必要で、ニーズの大きさに対して資金不足が問題です。

支援地域への通行阻止などに遭うこともあります。ユニセフはセキュリティ専門スタッフが事前に相手側と会って説明・調整・合意し、安全を確保したうえで活動しています。それぞれの分野で、地元住民も参加し協力し合う形での支援を行っています。

(2016年9月現在の状況)



© UNICEF South Sudan/Sebastian Rich



© UNICEF/UN010064/Rich

- 1 重度急性栄養不良の5歳未満児は推定36万人。腕の太さを図る検査用メジャーで栄養状態をチェックする。
- 2 学用品や子どもにやさしい空間、学習所などを提供して、「Back to Learning (再び学ぼう) キャンペーン」を行っている。



© UNICEF South Sudan/2016/Irwin

- 3 ひとりで避難キャンプに来た少女に事情を聴くユニセフスタッフ。

## 関連イベント

ユニセフ写真展  
**「アグネス・チャンさんが見た、一筋の光～南スーダン」を開催しました**

日時 9月21日(水)～28日(水)  
会場 コープこうべ生活文化センター展示室

2015年4月、アグネス・チャンさん(当時日本ユニセフ協会大使、2016年3月からユニセフ・アジア親善大使)が南スーダンを訪問した時の写真展を開催しました。子どもや若者の苦しい状況を変え、彼らを負の連鎖に巻き込まないために、受け皿をつくってきたユニセフの支援の様子を伝えました。



## Profile 講師プロフィール

のぶおか ゆうき  
**延岡 由規**さん

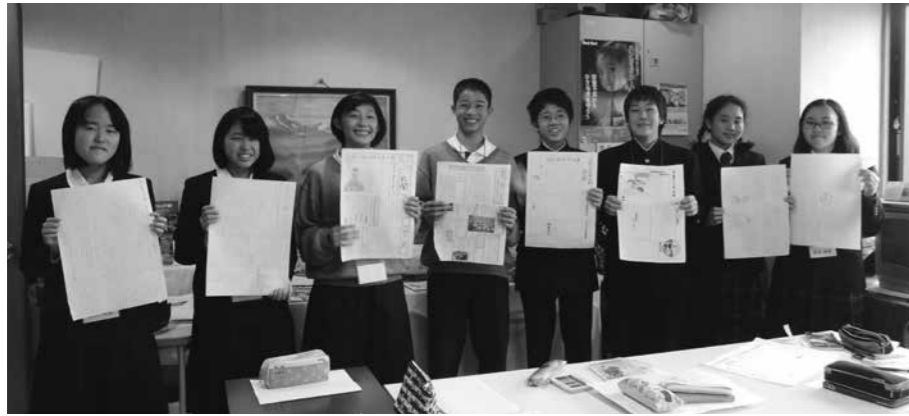
神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科4年  
2014年9月よりテラ・ルネッサンスでインターン開始。2015年度は休学し、ウガンダとカンボジアで海外事業を担当。2016年10月より広報ファンディングチームフェロシップとなる。2017年4月より海外事業部職員として、同団体に勤務予定。

大学2年の授業で子ども兵のことを知り、この問題を生きているうちに解決したいと思いました。子ども兵は最悪の形態の児童労働のひとつです。そのことは、小学生の時に知った、インドやバングラデシの働く子どもにもつながりました。元子ども兵への聞き取り調査の仕事をしていて、それぞれの悲惨な体験や複雑な事情を知りました。自分ができることはないのではないかと落ち込みましたが、周りにいた子どもたちの笑顔が救ってくれました。その時、自分がここにいるだけでいいのかなと思えました。全人類がこれまで一瞬でも、一度に笑顔になったことがあるのでしょうか。人の笑顔が大好きな私の幸せは地球の裏側で誰も泣いていないこと。そのために世界を平和にすると決めました。国際協力はそのための手段です。平和な世界を共に育てていきたいと思っています。

世界平和はできるかやらないかです。1日のうちのわずか0.001%、何かをするだけでも変わる可能性があります。それが連鎖していけば世の中は変わっていくと思っています。

## 4 トライやるで 世界を学ぶ

11月7日(月)～10日(木) 神戸大学附属中等教育学校 3年: 藤波明子さん、廣瀬郁香さん  
 11月7日(月)～11日(金) 神戸市立西代中学校 2年: 應谷咲さん、杉田悠水さん  
 神戸市立御影中学校 2年: 竹元流輝さん、藤田幸之輔さん  
 神戸市立本山中学校 2年: 川崎真子さん、柏木萌恵さん



### 生徒の感想から

- ・新聞作りなどで、他校の人からもいろいろな意見が聞けて良かった
- ・世界の子どものことを詳しく知ることができて良かった
- ・たくさん活動をしていて募金の必要なことが分かった
- ・人に伝えることの難しさを感じた。

◀ それぞれのテーマごとに作成した力作の新聞を発表しました。

今年も「世界のこと、ユニセフのことを知りたい」とこれからの社会を担う中学生がやってきました。朝の清掃に始まり、ユニセフ学習、ワークショップ、調べ学習、新聞・ポスターの制作、出展の準備作業などに一生懸命取り組みました。学校も学年も違う子どもたちでしたが、自分の意見を出しあう中で親しくなり、楽しく充実した一週間を過ごしたようでした。

## 5 兵庫から岩手へ チューリップの球根を届けました

2011年から続けているチューリップ募金。昨年も10月に岩手県のおさなご幼稚園、みどり幼稚園、大槌保育園に球根を届けました。園児たちが春を楽しみにしながら植えました。



## Pick Up

### 紅葉の美しい秋は イベントの季節!!

各地のイベントに参加し、手作り「かざぐるま」などで小さい子どもたちに喜んでもらいながら、イベントに合わせた内容のクイズや、支援物資を展示、ユニセフ活動を紹介しました。



10月12日(水)  
**コープこうべ組合員まつり**  
 会場: コープ姫路田寺

ひめじオーリーブの会のメンバーが組合員まつりに参加。ユニセフの活動を紹介しながら子どもたちと一緒に工作をしました。



10月29・30日(土・日)  
**兵庫県ふれあいの祭典**  
 会場: 丹波の森公苑(丹波市)

兵庫県ふれあいの祭典は、年1回行われるフェスティバル。○×クイズを通してユニセフ活動を紹介し、メガラポンで募金を呼びかけました。



11月5日(土)  
**にしのみやふるさとウォーク2016**  
 場所: 西宮市門戸厄神周辺

ふるさとウォークは、クイズを解きながら地域を巡るイベント。ユニセフのチェックポイントでは、ユニセフマークの意味について考える3択クイズをしました。

## 1 ユニ・ボラ塾

第1回「ネパールにおける人間の安全保障の現状と課題」  
 第2回「難民の時代に生きるということ」  
 日時 9月24日(土) / 11月26日(土)  
 参加者 33人 / 38人  
 講師 末吉洋文さん(帝塚山大学法学部教授)  
 会場 コープこうべ生活文化センター



「せっかくユニセフボランティアをするんだっから、こんな勉強もしたいよね」という事から始

まったユニ・ボラ塾が、4年ぶりに開催されました。今回のユニ・ボラ塾のキーワードはすべての人の自由と可能性を実現することを示した「人間の安全保障」。第1回ではネパールの子どもたちが置かれた厳しい現状について考え、第2回では難民に関する条約などを勉強していきました。また、グループワークでは、貧困の根絶や気候変動対策などに取り組むとした国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」について考え、それを広めるためCM用のキャッチコピーを考えたり、様々なケースの難民問題について話し合いました。

## 2 2016 ユニセフカップ 西宮国際ハーフマラソン

日時 11月6日(日)  
 場所 阪神甲子園球場前～武庫川公園



ユニセフのチャリティー・ランとして、西宮からアフリカに絆を結んで31年。今年も「アフリカの子どもたちの命と健康を守ろう!」をテーマに開催され、参加料の一部を寄付していただきました。ありがとうございました。

## 3 第38回ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

日時/場所 12月15日(木)/ コープ垂水  
 12月17日(土)/ 住吉  
 12月23日(金)/ 姫路・元町・三宮・住吉・西宮北口

世界の幼い子どもたちの命を守るため「栄養不良から小さな命を守ろう」をテーマに師走の街で支援を呼びかけました。募金額は260,597円にのびりました。皆さまご協力ありがとうございました。



# Activities File 活動ファイル



兵庫県ユニセフ協会の活動履歴  
 2016年9月～12月

## 活動一覽 Activities List

### 学習会訪問一覽

月日	訪問先	対象	人数
11月11日	明石市立王子小学校	小学生6年	48
11月16日	コープ大庄レインボースクール(尼崎市)	大人	5
11月18日	木津っ子のびのびひろば(神戸市)	小学生	10
11月27日	IKEA神戸	大人	7
12月4日	ガールスカウト兵庫県第25団(西宮市)	小学生～大人	25
12月12日	関西学院大学人間福祉部(西宮市)	大学生	83
12月16日	福崎町立高岡小学校	小学生5～6年	20
12月20日	姫路市立香寺中学校	中学生2年	190

### 地域活動一覽

\*ユニセフ紹介と支援グッズの展示

月日	イベント名
9月6日	南スーダン現地報告会
9月21日～28日	ユニセフ写真展 「アグネス・チャンさんが見た、一筋の光～南スーダン」
9月24日	ユニボラ塾①
10月12日	コープ姫路田寺組合員まつり *
10月14日	コープ三木緑が丘組合員まつり *
10月22日	姫路市医師会看護専門学校文化祭 *
10月22日	第4回 国際理解講座
10月29日～30日	兵庫県ふれあいの祭典(丹波市) *
11月5日	にしのみやふるさとウォーク2016 *
11月6日	2016ユニセフカップ西宮国際ハーフマラソン *
11月12日	コープ福祉ボランティア交流会 (コープこうべ第3地区活動本部) *
11月13日	協同学苑25周年記念フェスタ(三木市) *
11月26日	地球のステージ(コープこうべ第2地区活動本部)
11月26日	ユニボラ塾②
12月3日	第5回 国際理解講座
12月15日	ハンド・イン・ハンド街頭募金活動(場所: コープ垂水)
12月17日	ハンド・イン・ハンド街頭募金活動(場所: 住吉)
12月23日	ハンド・イン・ハンド街頭募金活動(場所: 姫路、元町、三宮、住吉、西宮北口)

※トライやる受入(11月7日～11日)  
 神戸市立西代中学校、神戸市立御影中学校、神戸市立本山中学校、神戸大学附属中等教育学校

### 募金

月日	対象	備考
11月6日	2016ユニセフカップ西宮国際ハーフマラソン	訪問
12月20日	生活文化センター茶道教室	持参
12月24日	A-Bridge Cup実行委員会	訪問

## ユニセフ募金 Donations For Unicef

### ■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

### ■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ネパール大地震	ネパール K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ干ばつ	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道支援 K1-280 兵庫	00190-5-31000

\*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会

\*手数料免除

### Volunteer

## あなたもボランティア!

### ボランティア募集中

「できる人が できる時に できることを」  
をモットーに子どもたちのための活動をして  
います。一緒にボランティアしませんか。  
お気軽にご連絡ください。

# Wish<sup>ユニセフ兵庫ニュース</sup> vol.51

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2017年(平成29年)1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

●最新の情報はホームページで

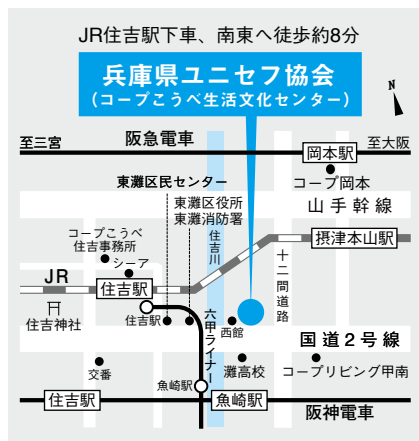
<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



## Join Us 主催イベント

講師の都合により予定を変更する場合があります。  
詳細は HP をご覧ください。



お申込み、お問い合わせ先

事務局 078-435-1605

## News お知らせ

### 2017 国際理解講座①

「生きる力ってなんだろう」

ケニア・キベラスラムの子どもたちとともに

日時 2月25日(土) 10:00 ~ 12:00

会場 姫路青山コープのつどい場  
(姫路市飾西 ノース青山 1F)

参加費 無料

## Booth 出展参加

2月11日(土)	ひょうご・こうべワールド・ミーツ for YOUTH
2月12日(日)	2017ユニセフカップ神戸パレ ンタイン・ラブラン
2月26日(日)	西宮ファミリーフェスタ
3月12日(日)	神戸国際交流フェア
4月9日(日)	2017ユニセフカップ芦屋国 際ファンラン

出展ブースでは、支援物資の展示、クイズ、ゲーム、資料の紹介などを予定しています。

## 事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会「第12回理事会、第6回評議会」を開催しました。

日時：2016年12月5日(月)

会場：コープこうべ生活文化センター

2016年度の事業報告と決算見込みに  
関する件、2017年度の事業計画と予  
算に関する件、役員に関する件、すべ  
ての議案に了承いただきました。

2017年は、設立15周年を迎えます。  
これまでの活動を次世代につないでい  
けるよう、持続可能な活動を継続します。



## ユニセフ ひょうご サポーター

### 賛助会員募集中

賛助会員となって、  
兵庫県ユニセフ協  
会の活動を支えて  
ください。お申し込  
み、お問い合わせ  
は事務局までお願い  
いたします。